

平成 27 年 6 月 定例会（第 320 回） 清水議員

◆十八番（清水勉）（登壇）一八番清水勉でございます。議長並びに会派議員皆様のご配慮をいただき、維新の党を代表して、奈良県議会で初めての代表質問をさせていただきます。

そして、平成二十七年三月六日の知事政策発表時には、リニア中央新幹線についても次のとおり触れられております。

関西広域連合への参加は、リニア中央新幹線の間駅設置場所問題について、関西広域連合で決めようという動きがまだあるので、それについては強く警戒してきました。特に、関西広域連合内で滋賀、京都が強く主張しています。現に北陸新幹線の敦賀以西の路線について、違うルート of 提案が望ましいと決定された経緯があります。同じことがリニア中央新幹線の奈良駅についても起きるとおっしゃる向きもありますと発言されています。

また、知事はリニア中央新幹線の間駅設置位置について大変心配されております。今後は関西広域連合の構成員の一員として、二〇二七年の東京・名古屋間のリニア中央新幹線開業に加えて、大阪までの同時開業と中間駅設置について、強力に強力に発言されるべきと考えますが、いかがでしょうか。お答えください。

◎ 知事（荒井正吾）（登壇）十八番清水議員のご質問にお答え申し上げます。

次にリニア中央新幹線の間駅について、全国新幹線鉄道整備法に基づく国の基本計画及び整備計画において、主要な経過地として、奈良市附近と決定されています。国で決定したことを覆すような議論を、関西広域連合で行うべきでないと考えているところでございます。とりわけ国土防災、国土強靱化の観点から、リダンダンシーという考え方が国のルート設定でとられておりますが、関西の一部の都市でこのような考え方の基本を変更されるようなことは、地域の利益のために変更されるようなことはあってはならないということ、強く主張してきたところでございます。

三重・奈良ルートによる早期の全線同時開業については、これまでも三重県や両県の経済団体と連携して、法律に基づく両計画の策定主体である国や、建設営業主であるJR東海に対して訴えてきております。引き続き、強く訴えてまいりたいと考えております。